

C-32 婦人服ベイシック形ドレスにおけるゆとりに関する研究 (第1報)

福山女子短大

増田茅子

目的 適当な被服のゆとりの重要性はいうまでもない。又種々ある被服形態は、その目的用途によって様々のゆとりの分量を要求すると思われるが、まづ婦人服ベイシック形ドレスにおける最適のゆとり寸法を求めてこれを考察してみた。第1報としてバストのゆとりについて報告する。

方法 JIS L0102 の婦人寸法の分類に従って被験者(F女子短大生/06名、平均19才)を分類し、各サイズ毎に用意したパターンで、材料MUSL/Nを使用したベイシック形のドレスを着用させ、補正して再びそれを平面に展開して、各自オリジナルのパターンを作成した。そのオリジナルのパターンの各部寸法を実測することにより各部のゆとりの分量を求めた。

結果 4エストラインのゆとり、平均値 = 12.2 cm $S = 2.37\text{ cm}$ 乳頭位胸囲のゆとり 平均値 = 9.4 cm $S = 2.62\text{ cm}$ 後巾でのゆとり、平均値 = 2.5 cm 、前巾でのゆとり、平均値 = 0.65 cm 、側部でのゆとり平均値 = 9.1 cm 、以上のゆとりの寸法を、体型を示すと思われる次の比率、背肩中/前肩中、後巾/前巾、後肩の高さ/前肩の高さ、後肩の傾斜/前肩の傾斜、乳頭位胸中/胸部厚径、背丈/前中央丈、等との関連をしらべてみた。その結果として後のゆとりは、後巾/前巾に、 $\gamma = 0.5$ の相関を示し、側部のゆとりは、胸部厚径に、 $\gamma = -0.37$ の相関を示した。又4エストラインに於ける胸囲の前後寸法の差は、後巾/前巾と、 $\gamma = -0.61$ の相関を示した。